

令和5年度 第4回伊万里市民と考える地域交通会議  
会議録

日時：令和6年1月15日(月) 14:00～15:30

場所：伊万里市役所4階大会議室

<配布資料>

0. 次第、委員名簿、座席
1. 伊万里市地域公共交通計画(案)
2. 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)
3. 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)

◆意見要旨

1. 第4回伊万里市民と考える地域交通会議

<協議事項>

【1】地域公共交通計画(素案)について

\*資料1-1、1-2を基に、事務局、KCSが説明。

桑本会長 : 事務局、KCSの説明について、ご質問等はないか。

前田委員 : 事業5-3の「自動運転車輛の導入に向けた検討」のところで、市で昨年、大川内山で自動運転の走行実験があったと思うが、問題なかったのか。

事務局 : EVのスローモビリティ(ゴルフのカートのようなもの)を行った。実験的に昨年11月～12月に行ったが、自動運転ではなく運転手がいた。

前田委員 : 大川内山は広いところではないが、狭い状態でも大丈夫だったのか。

事務局 : 大川内山の観光地を巡るもので、これは5-3というよりも5-2の「EV車両の導入に向けた検討」に関連したもので、電動自動車を低速で運行する実験を行った。大川内山は狭いが問題なく運行、実証実験出来た。課題は色々あるが、それは今後検討していく。

前田委員 : 観光客へのアピールは難しいと思うが、わかった。

坂井委員 : 南波多町の交通空白地が聞き取れなかったもので、再度教えていただきたい。

事務局 : 南波多町の谷口、高瀬、大川原、府招、原屋敷。

- 桑本会長 : 目標値に入れるというのは確実性があるのか。
- 事務局 : 5年以内になんとか出来ればと思っている。地域からの要望があれば関係者と協議する。
- 草野委員 : 資料1-2の地図で伊万里市の将来公共交通ネットワーク(案)とあるが、西九州自動車道が走る予定やインターチェンジをつなぐという計画があると聞いているが、そこまで加味して作られているのか。次に、事業3-4の「公共交通空白地対策の推進」についてお願いがある。空白地はバス停から300mとなっているが、実際は300m以内でも獣道を通らないとバス停まで行けない地区が多々ある。高齢の住民は介護サービスの方に頼って大きな道まで出ている現状なので、介護サービスとの連携を取ることも踏まえてほしい。次に、事業4-1に「貨客混載運送の実現に向けた検討」とあるが、これは国交省から平成29年8月7日付で通達が出ている。それも踏まえた上での計画なのか。次に、事業4-4の「教育や医療等と連携した移動手段の確保の検討」について、山元病院の受付に行く無料バスを出しているというが、それを踏まえているのか。
- 事務局 : 1点目については考慮に入れていない。2点目についてはラストワンマイルが問題になっているので、現在運行しているコミバスの路線の変更やきめ細かいことを各運行主体で検討してもらって、協議が整ったら路線の変更をこちらの会議でかける。一部の交通空白地ではデマンドタクシー投入の拡大を通じて自宅近くとの交通手段の確保を目指すという考えである。3点目については、現在少ない人の代わりに何等か出来ないかということで記載している。平成29年の運送を考慮に入れているかは、その部分はこちらではわかりかねる。
- 草野委員 : バスやタクシーでも荷物を運べますよ、というのが既に出ており、その点の確認である。
- KCS松本 : タクシー、バスの基準を示した通達のことだと思うが、そのあたりは配慮しながら検討していく。過疎地域だと許される等記載されていたと思うが、タクシーの場合どういった条件なら可能か、もう一度確認する。
- 事務局 : 4点目については、医療機関で無料送迎されているところもあるので、そちらと公共交通のタイミングが合えば一部そちらを利用してもらって、帰りは公共交通を利用出来ないか等、色々な手段を検討していきたい。
- 庄司委員 : 基本目標値について、路線バスの維持ということで、現況値が6路線、目標値が令和10年時点で現状維持となっているが、現在伊万里市内の路線は国、県、市沿線自治体に負担してもらって維持している状況。それでも輸送人員が少ない路線が何路線か見受けられる。現状6路線ではあるが、今後は乗務員不

足等で路線自体を維持出来ない可能性が高い。乗務員の高齢化も進んでおり、令和10年になった時に今の6路線を維持出来るかはわからない。利用者数に応じて、路線バスでなくても違う交通手段で維持するのも今後検討されるところではないか。基本目標2で路線バスの財政負担、収支率の目標値が現状維持(令和10年)となっているが、燃料費高騰等でどうしようもない。乗務員不足解消のためには賃金を上げる必要もあるので、以前のように費用の削減は難しい。経費はこれ以上削れないので、逆に利用者数を増やして収入を上げて収支率を保つようになると思う。利用者数を増やす方がいい。

事務局 : 現状伊万里市の6路線は市外との重要な交通手段ということで、この計画で位置付けたい。バス会社のご都合で難しい部分もあると思うが、この会議では6路線を維持していきたいという考えで挙げている。指標に関しては、費用が上昇している中で、乗客を増やすことで収支率を改善していきたい。利用者増の取り組みとして、事業2-3の「公共交通利用者への運賃補助」等も将来的に出来ないかとして目標としているので、そこも絡めて「乗って守る」意識を育み、自家用車依存からの脱却」という指標を達成していきたいと考えている。

野原委員 : 良い言葉が並んでいえるが、何をやるにしても交通関係は乗務員がいる。昨年2024年問題という言葉をよく聞く。何故乗務員が不足するのかというと、拘束時間が今は1日最大16時間可能であるが、それが15時間までに短縮される。年間残業時間が上限960時間、月平均では80時間になる。今は退勤から出勤まで8時間なのだが、労働条件の緩和で9時間になる。実際トラックは120~150時間残業している。16時間が1時間縮まるだけで、労働条件は多少良くなるが、実際には人手がもっと逼迫する。事業1-3に「乗務員の確保」とあるが、具体的にどうやって確保するのか。例えば西肥バスで今度、大きく運転手募集と公告する。現状運転手が不足していることを十分周知出来ていない。減便や廃止で初めて問題が認識される。佐世保でも起こっているが、どこの地域でも利用しようという機運が少ない。便数を大幅に減らされてから気付くのでは遅い。バスは公共事業のようだが、走っているのはほとんど民間企業であり、赤字続きでは減便や廃止もやむを得ない。賃金も少なく、運転手のなり手がなく、という状態で続けている。市からはどういう補助を考えているのか。平戸市はタクシー事業者に20万円助成しており、免許を取って入社する人にも20万円助成している。伊万里市としてはどう考えているのかをお聞きしたい。

事務局 : 運転手確保に関して、現在具体的にはまだ詰められてない。平戸市の事例や伊万里市周辺自治体の動向も見ながら今後検討していきたい、今は具体的な支援策は出来ていない。

野原委員 : 業者任せにしていたら手遅れになるという心配をしている。

草野委員 : 2年前に法律が地域交通法に変わった中で、令和5年7月14日に共創という

ことで国交省から12月までに補助金の募集があり、人材育成事業がもりこまれていたが、そういうことは検討されているのか。手を挙げた地区の中に伊万里市はなかった。九州では宮崎県が挙がっていたが、国も予算を倍にするなど一生懸命頑張っているが、伊万里市で検討されているものがあれば紹介いただきたい。

事務局 : 今回の補助金に関しては時間的に短く、勉強不足で現段階では検討は出来ていない。今後補助メニューについては、国の担当の方を通じて勉強して、事業者へ支援を検討していきたい。

牟田委員 : 先ほどの支援制度（共創モデル実証プロジェクト）について、これは交通だけでなく、医療や福祉といった他の分野との共創に国が支援するというもので、今年度は終わっているが来年度も予定している。まだ詳細は国で検討中だが、順次地方にも制度内容が下りてくるので、県に情報共有し、活用を働きかけていきたい。

坂井委員 : 運転手不足については、伊万里市だけではなく全県的に問題となっている。路線バス担当の交通政策課が同部内にあり、そこでは具体的に運転手不足に対して県に何が出来るかを検討している。次の議会にかけて予算の検討もしている。県、国、市町と協力しながら運転手不足に対して引き続き本腰を入れて検討していかないといけないと思っている。

草野委員 : 2月4日に伊万里の自動車学校でバス運転手募集の説明会を行う。県の支援を受けながら実施する。

田中委員 : 乗車率を増やすとのことだが、運賃を安くしても乗らないのではないかと心配している。

野原委員 : 事例として、便数が減ったり路線が廃止されれば、その地域の子供が親と離れる。佐世保では減便した5～6年後、子供が中学生から高校生になった時にその地域にいられなくなった。下校時間が制限され、クラブ活動が出来ないし、塾にも行けない。そのため30～40分離れた街へ子供と一緒に親も転居してしまい、その親（祖父母）だけが取り残される。交通の大事さは中学校までは教育委員会が守ってくれるが、高校になると守ってくれない。市や地域が関与して便数（時間帯）を守っていかないと過疎化してしまう。実際に地域の交通の切られたところは過疎化しており、昼間や日曜日は高齢者ばかりになっている。利用者が少ないから便数が減るといった負のスパイラルの歯止めはかからないが、便数の歯止めは補助金でかけられる。国や県の補助金は規定があるが、市は規定がないから、今後予算組するときに市に頑張ってもらわないといけない。もうひとつ、バスの補助金の話で、バスの車両を買うときに国と県合わせて60%程補助金が出るが、貰うにはその地域を50%以上走らないといけないという規

定がある。長崎県は3年か5年だが、佐賀県は10年継続だから申請に二の足を踏んでいる。5年くらいにならないか。期間が短縮されて補助金の申請が出来れば、コストが削減される。

事務局 : 利用者数を増やすのが難しいのは認識している。ただ、乗らないとさらに減便されて、地域住民の免許を持ってない方が困ることになる。その路線の沿線住民に、市の方から未来永劫続かないことを訴えながら目標を掲げて、少しでも利用者が増えていくよう目指したい。

桑本会長 : 他にご質問等はないか。

各委員 : 特になし。

桑本会長 : みなさんのご意見も踏まえて、【1】地域公共交通計画（素案）について、承認いただける方は挙手をお願いしたい。  
挙手多数ということで、承認いただいたものとする。

## 【2】 地域公共交通確保維持改善事業における事業評価について

\*資料2を基に、事務局が説明。

桑本会長 : 事務局からの説明について、ご質問等はないか。

各委員 : 特になし。

桑本会長 : 【2】の地域公共交通確保維持改善事業における事業評価についてご承認いただける方は挙手をお願いしたい。  
挙手多数ということで、承認いただいたものとする。

## 【3】 地域公共交通調査事業における事業評価について

\*資料3を基に、事務局が説明。

桑本会長 : 事務局からの説明について、ご質問等はないか。

各委員 : 特になし。

桑本会長 : 【3】の地域公共交通調査事業における事業評価についてご承認いただける方は挙手をお願いしたい。  
挙手多数ということで、承認いただいたものとする。  
本日の審議事項についてはこれで終了とするが、ほかにご意見ご質問等あればお願いしたい。

早田委員 : みんなで乗ろうという啓蒙活動が必要だと感じた。10月から2月まで福岡への直行便(土日)が出ているがあまり知られてないのではないか。色々なメディアを使ってのPRが必要だと思った。色々なバス路線(波多津とか)があるが、今時刻が見えるのは伊万里市のHPくらいしかない。観光協会のHPが今年度更新するので活用してほしい。

事務局 : 今回の計画(素案)について、1/22から2/14までパブリックコメントを実施し、いただいた意見は2月末予定の次回交通会議で報告する。

桑本会長 : それではこれで会議を終了とさせていただきます。